

「赤木名小学校の赤木名八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名 奄美市立赤木名小学校

2 学年・人数 1年生～6年生 計112名

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和元年6月～令和元年9月 本校体育館

(2) 発表の日時・場所

当初の予定では、大運動会で地域の方々と一緒に踊る予定でしたが、インフルエンザ蔓延により、運動会が延期になり、発表ができなかった。

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称 赤木名八月踊り（あかきなはちがつおどり）

(2) 由来

八月踊りは、奄美の各シマに伝わる男女が唄をかけ合いながらの踊りである。歴史性については、はっきりとした記録はないが、唄の歌詞などから琉球服属時代ではないかと言われている。奄美のノロ（神様）の祭りが集団踊りへ発展した、悪霊払いの火の神祭り、豊年感謝・祈念の祭り、先祖を偲ぶ祭りなど、様々な祭りを由来として現在に伝わっている。

(3) 構成等

八月踊りは、基本的に「新節（アラセツィ）」（旧暦最初のヒノエの日）、「芝挿し（シバサシ）」（新節から七日目のミズノエの日）、「ドゥンガン」（芝挿しの後のキノエネの日の3回に分けて踊られていたが、現在では、ほとんどの集落が一回で終わっている。

踊りの構成として男女別に列を作り「ほこらしゃ」を踊りながら、門から家に入り、男女分かれて一つの輪を作る。その後、座り唄（イリウタ）を唄いながら踊りが始まり、赤木名地区では、最後に「浜千鳥（ハマチジュラ）」を踊るようになっている。

5 保存会や地域との連携の具体

赤木名八月踊り保存会の方々は、赤木名っ子タイム（総合的な学習）の時間や家庭教育学級で、子どもたちや保護者に指導してくださっている。

赤木名っ子タイムでは、年間8時間程度、学校に来ていただき「赤木名観音堂」「さんだまけまけ」「浜千鳥（ハマチジュラ）」の3つの踊りを学ばせていただいている。

昨年度に引き続き取り組んだ家庭教育学級でも、保存会の方が講師となり、伝承活動を行った。この日はいくつかの行事と重なり、保護者の参加が少なかったが、保存会の方がたくさん参加してくださり、保存会の方々の強い思いを改めて感じる事となった。

また運動会の練習では、担当集落の方々、保存会の方々10数名が来校して、踊りの輪の中心に入り、唄のかけ合いや太鼓（ツィジン）でリードしてくださっている。子どもたちも赤木名っ子タイムでの学習を生かして6年生が地

域・保存会の方と一緒に太鼓（ツイジン）のリズムを打ち、他の学年の子供たちと一緒に、声を出しながら元気に踊っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

貴重な文化財である赤木名八月踊りを継承していくためには、若い世代に伝えていくことが大切であると考え、工夫したことが二つある。

一つは、伝承活動を学校の教育活動にしっかりと位置付けることである。本校では、「ふるさと赤木名を愛し、誇りと自信をもつ子ども」を育てることを学校経営の柱の一つに掲げ、カリキュラムにも反映させている。実際、赤木名っ子タイム、そして運動会練習と、6月から9月まで継続した取組になるように教育課程に位置付けており、その結果、唄や踊りを覚えることにはつながっている。今後は、「大切にしたい」という心情面まで高められるようにしていかなければならない。

もう一つは、保存会や地域の方々との連携である。日頃から管理職を中心に地域行事に参加したり、八月踊り保存会に入会し、学校の願いを伝えたり、保存会や地域の方の思いを承わったりして、つながりを強くしている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）

赤木名っ子タイムと家庭教育学級



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

<保存会の方の意見>

- 八月踊りは、シマに残った人がするしかない。
- 子供たちはやっぱりすぐに覚えるねえ。やっぱり早めに教えた方がいいね。

<子どもたちの感想>

- 「さんだまけまけ」が踊りやすかった。声も出せたのでよかった。
- ツイジンをずっと持っているから手が痛かった。でもやってよかった。初めてだったので・・・。

<保護者の感想>

- 子供と一緒に踊れる機会があって楽しかった。自分たちも知らないのに、やはり覚えなれないといけない。